

研究成果の今後の活用について

研究テーマ	東大阪市におけるリビング・ラボの手法活用に係る調査研究
担当部署	協働のまちづくり部市民協働室

研究を希望した理由	リビング・ラボは、まちの主役である住民が主体となり、地域課題の解決に向け、企業・大学などさまざまな人たちのアイデアを合わせて、暮らしを豊かにするためのサービスを生み出したり、より良いものにしていく活動である。本市では、地域における具体的なまちづくりの仕組みの検討を重ねているところであり、地域コミュニティとまちの活性化につながる 1 つの手法として研究をお願いした。
研究成果の概要	東大阪市におけるはじめてのリビング・ラボ活動として、市民、企業、大学、行政とともに取り組んだ。今回の取り組みは企業からのテーマ提示によって進行したプロジェクトであったが、当事者に参集してもらうことで、活動に参加する意義を感じてもらうことができた。まちづくりの観点からも、多世代参加による相乗効果があった。
研究成果の今後の活用について	東大阪市という多くの多様な企業と大学が集まる地域であるからこそ、産学官民が共創するオープンイノベーションであるリビング・ラボには意義があり、まちづくりの有効性の一端が見いだされた。今後は、地域における具体的なまちづくりの仕組みについて、研究成果を参考に検討を進める。